

# 月刊 社会教育

特集

## 人と人をつなぐ地域と社会教育

かがり火 人と人をつなぐ地域——山下祐介

○地域の自治と文化・共同を育む公民館——山城千秋

〈オンライン座談会〉 若者からみた地域

丸山卓真・高橋里帆・久保博成／司会 棚田一論

・地域文化を次の世代へ——北島高行

・地域で世代をつなぐ子ども会活動——阿部隆之

・「地域再生プロジェクト」から「集い場ふらつと」までの取り組み——伊藤由紀子

・「俳句のまち」へ取り組んで——野呂達矢

・「大人の学校」が目指すもの——宇佐川拓郎



# 2

2023 No.801

■ 会員割合80%を維持する町会活動に寄せて

■ 沖縄で暮らして学んだ人と人のつながりの価値

◎ 社会教育を拓いた人々④

飯田市公民館の中興を支える 伊藤安正

野路丞一

坪松美紗

木下巨一

# 俳句の風景 268

作者紹介

昭和24年(1949) 東京都生まれ。同61年「未来図」入会(主宰鎌和田柚子)。平成2年(1990)「未来図新人賞」受賞。同7年俳人協会新人賞受賞。同11年「未来図賞」受賞。令和2年「稲」創刊。句集に『西へ出づれば』『海鞘食うて』がある。俳人協会評議員。

## 魚には痛点のなき多喜二の忌

山田真砂年やまだまさとし

『西へ出づれば』所収  
季語「多喜二の忌」(巻)

私が選んだ10句

黙禱の手にくしやくしやくの夏帽子

西安を西へ出づれば残暑かな

実朝も公暁も寒の牡丹かな

中年のヴィタミン好きやブロッコリー

海鞘食うて第六感のゆるぶかな

をのこらは棒切れが好き天道虫

八瀬の村秋は天より降りて来し

悴むや異端審問受けるごと

ぼろ市や仮面を売りに畏まる

世を捨つる思ひ湖国に雁渡し

### 鑑賞

2月20日は、『蟹工船』の作者として広く知られる小林多喜二が通称「特高」(特別高等警察)に殺された日である。政府に反対する思想犯を取り締まる目的で明治末に作られた「特高」が関係した事件は、俳句にも及んでいる。昭和15年から18年にかけて治安維持法違反として新興俳句の俳人が逮捕され、多くの俳句誌が廃刊に追い込まれた。新興俳句弾圧事件(京大俳句事件)がそれである。

作者は昭和8年、特高に捕まり惨たらしい拷問の末に29歳で殺された多喜二を深く悼み、詠んだこの一句は私の胸を強く打った。人が痛みを感じる痛点を魚がもたないのは当たり前なこと。作者は敢えてこのことを示すことで、多喜二がいかに痛みに耐えながら拷問により亡くなったかを表現した。歳時記を調べると、実朝忌、西行忌、人麻呂忌、龍太忌、三鬼忌、虚子忌、啄木忌、修司忌等の春に亡くなった歌人や俳人の忌日俳句が紹介されている。しかし、多喜二忌だけは他の忌日俳句と詠まれ方が全く異なっている。

多喜二忌や糸きりきりとハムの腕

秋元不死男

多喜二忌やまだある築地警察署

三橋敏雄

多喜二忌やがんじがらめの荷の届き

遠藤若狭男

これ等の俳句は、多喜二がどこでどんな殺され方をしたか暗示する。「魚には」は、歳時記に例句として取り上げて欲しい一句である。そして2月20日は、憲法19条「思想及び良心の自由はこれを侵してはならない」を深く噛みしめたい。

●(公社) 俳人協会会員・甲冑研究家

棟方武城むなかたぶじろう